2017.4.21
長周新聞

千三百人の情報流出

梅光学院の学生リスト盗難 ――学院長ら会見 「改革」で学内劣化

下関市の梅光学院は一九日、職員の一人が車上荒らしにあい、盗まれた鞄の中に今年度の在学生リストや今春の受験生の一部を記載したリストが含まれていたことを発表した。学院長でもある樋口学長、只木統轄本部長らが会見を開き謝罪した。

車上荒らしにあったのは、入試や学生募集などを担当しているアドミッションセンターの男性職員（二九歳）。この職員は一七日、翌早朝から沖縄へ出張するため、学生のリストを紙媒体で持ち出し、公用車で帰宅したが、その途中の午後七時三〇分頃、下関市内のパチンコ店に立ち寄った。午後一〇時頃に駐車場に戻ると、助手席側の窓ガラスが割られて車内に置いていた鞄がなくなっていたという。

鞄の中には、今年度在学している全学生一一九四人分の氏名、学籍番号、性別、学年、学科、専攻、クラス、出身校等が記載されたリストの他、今春の受験者のうち四二八人分の氏名や合否、入学の有無などが記載されたリストが入っており、実数にして一三三六人分の個人情報が流出するという、かつてない事故となった。学院は住所や電話番号、保護者の氏名等は記載されておらず、一九日現在では二次被害の報告はないと説明している。

個人情報紛失について記者会見する樋口紀子学長、只木徹統轄本部長ら（19日）

梅光学院では前代未聞の大事件であり、学生たちへの説明会でも事実関係や対応についての質問、また学院の責任を問う発言があいついだ。一九日に学生、教員に対して初めておこなった説明会では、責められるのを恐れたのか、パチンコ店であったことを伏せて報告していた。

当事者の学生らが報道で事実を知ることとなり、この間積み重なってきた学院運営に対する不信がさらに募るものともなっている。

樋口学長や只木統轄本部長は会見で「紙媒体での持ち出しは禁じていた」「取扱に気を使っていた」とのべていたが、学院内の状況を知る関係者らは、学生の名前や配慮すべき事項などが記載されたものが日頃から紙媒体でやりとりされており、とくに最近、これらの取扱いがずさんになっていたと指摘している。約一三〇〇人分ものリストを車内に放置したままパチンコ店に立ち寄るという、緊張感のない行動が生まれる空気が学院内にあったようだ。

以前ならこうしたリストを教職員に配布することがあっても、回収またはシュレッダーにかけて処分していた。しかし最近は放置されることが増え、気づいた教職員が散逸しないよう自主的に回収する状況があったり、出張先に紙媒体を携帯することも頻繁にあったという。「車上荒らしにあった」ことは偶発的な出来事だが、こうした事件が起こる素地が既にあったと、共通して指摘している。

経営陣が掲げる「改革」と同時進行で、むしろ劣化が進む。その背景には、学院の経営・運営方針について意見する教職員を大量に辞めさせたり、辞職に追い込むなどしてきたことがある。経営の要ともいわれる経理の首を切ったのをはじめとして、学院運営に知悉した事務職員を次次入れ替えたため、この一年でも学費の請求ミスも含むトラブルがあいついできた。今回事件を起こした二九歳の男性職員も昨年一一月に採用されたばかりだったが、恣意的な教職員の首切り・採用がおこなわれ、人手不足も常態化するなかで、落ち着いて職員教育もできなくなっている。

当事者である男性職員に事実確認をすることももちろんであるし、個人情報保護法にもとづいて学内規定を見直すこともちろん大事だが、何よりその劣化をもたらしている「改革」の見直しが必要であることを、今回の事件が示すこととなった。